



きらめきプロジェクトからお知らせ

学生 教職員 医療従事者対象

第3回

平成30年度 九州大学馬出地区 4部局合同男女共同参画FD

2018年

10月15日 月 17:00-19:05

九州大学医学部百年講堂 大ホール

第一部

17:00~17:45 基調講演

「医師のための働き方見直し
～ワークライフバランスとダイバーシティの
観点から～」

座長 住本 英樹 (九州大学大学院 医学研究院長)

講演 伊東 昌子 先生

長崎大学 副学長 / ダイバーシティ推進センター長
長崎大学病院 メディカル・ワークライフバランスセンター長



第二部

17:50~18:10 講演

「本学の男女共同参画の取り組みについて」

座長 赤司 浩一 (九州大学病院 病院長/きらめきプロジェクト センター長)
講演 玉田 薫 (九州大学男女共同参画推進室 副室長)

18:15~19:05 パネルディスカッション

座長	加藤 聖子	(医学研究院生殖病態生理学 教授)
	樗木 晶子	(きらめきプロジェクト 副センター長)
パネリスト	伊東 昌子 先生	(長崎大学ダイバーシティ推進センター長)
	玉田 薫	(男女共同参画推進室 副室長)
	井上 修作	(九州大学病院産科婦人科)
	寺岡 佐和	(医学研究院保健学部門)
	森山 雅文	(歯学研究院歯学部門)
	佐野 朋美	(歯学研究院歯学部門)
	廣田 豪	(薬学研究院臨床薬学部門)
	麻生 真理子	(薬学研究院創薬科学部門)
	土本 大介	(生体防御医学研究所)
	木庭 絵美子	(生体防御医学研究所)

お問合せ
託児の申込み

九州大学病院 きらめきプロジェクトキャリア支援センター

TEL/FAX : 092-642-5203

M A I L : kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp

企 画 : 平成30年度男女共同参画FDWG



HP メールお問合せ

きらめき通信 vol.47

2018年10月 (隔月発行予定)



性差医学に関する講義が行われました

5月22日と29日に、きらめきプロジェクトOGである国立病院機構九州がんセンター乳腺科部長である徳永えり子先生と医療法人たかやま内科医院院長である雨宮直子先生を講師としてお招きし、性差医学に関する講義を行いました。

乳がん治療などの乳腺外科の立場から、また女性外来や心療内科の立場から性差医療についてお話をさせていただきました。学生にとって性差医療の大切さを学ぶ良い機会になったのではないのでしょうか。

【学生の感想(抜粋)】

- * 男性も女性も2人に1人はがんになる。女性の11人に1人は乳がんになるという数字は恐ろしいなと思いました。薬の説明を何も分からない患者さんに分かりやすく説明しなければならぬと聞き、これからの勉強のモチベーションになりました。
- * 「病者は医療者の前にいる時のみ患者である」という言葉にはっとさせられた。ただマニュアル通りに治療するだけでは患者さんの心に寄り添うことができないと感じた。
- * 男女は「平等」というけれど、実際に身体づくりが違うしホルモンなども違っている。それを理解することが大事だと思った。「イクメン」という言葉が使われ続ける限り男女平等とは言えないという言葉が印象的でした。



九州大学病院

きらめきプロジェクトキャリア支援センター

〒812-8582 福岡市東区馬出3丁目1-1

TEL・FAX : 092-642-5203

M A I L : kirapro@kirameki.med.kyushu-u.ac.jp

U R L : https://www.kyudai-kirameki.com/



HP

日々頑張っている、きらめきプロジェクト所属のドクター（医師1名・歯科医師1名）を紹介します。

医師

卒後12年目の内科医です。内科医の夫、子供2人の4人家族です。卒後7年目、出産を機に5年間診療から離れていました。医局の先生からのアドバイスがあって、昨年10月からきらめきプロジェクトに採用していただきました。最初のうちは子供を預けて出勤するだけで苦労があり、診察手順にもパソコン操作にも戸惑い、数時間の勤務ではわずかの仕事しかできていないのになぜか相当に疲れて帰る日が続いていました。それでも、念願の診療業務に戻れて本当に嬉しかったのを覚えています。そんな私ですが、5年間休んでいる間に同期も後輩も立派に専門医となり、上の先生に聞くに忍ばれるような質問に沢山つきあっていただけたおかげもあって、近ごろは随分まともになってきたように思います。

仕事を終えた後は子供と遊んで気分転換しますが、そのあとは家事もできないくらい疲れてしまって家族でメタボご飯を囲むことも頻繁にあります。さすがに家族の健康に影響するかと心配になり工夫していますが、気を抜くとメタボご飯になってしまいます。

長い休暇から引っ張り出してくださった指導医の先生と支えてくださる先生方、今働かせていただいている環境、家では家事や育児と一緒に頑張ってくれる主人、子供たちを預かってくれる人たち、すべて

に感謝です。本格的な復帰に挑むとき、どんな風景があるのでしょうか、少し楽しみ、少し不安ですがこれからも邁進していきたいと思っています。



歯科医師

卒後7年目の歯科医師です。大学院卒業後、医員として勤務しておりましたが、持病の加療や夫の転勤が重なり、常勤のままでは周囲の先生方にご迷惑をおかけするかもしれないという不安があり、進路に悩んでいたところ、ご縁がありきらめきプロジェクトに応募し、採用していただけることとなりました。



きらめきプロジェクトのおかげで、大学院時代からの研究の仕上げを継続しつつ、臨床もこれまで通り続けることができ、大学院入学時から目指していた認定医取得を目指すことができるようになりました。

非常勤となって一番助かったことは、急に自身の平日の通院や手術が必要になった際に、通院にある程度融通をきかせることができたことです。また、術後は、仕事の最中はそのことを考えずに済み、がんばらない！と思えたので、完全に仕事を辞めずにきらめきを続けていてよかったと実感しました。



今後も仕事も継続しつつプライベートも前向きに頑張っていきたいと思っています。きらめきプロジェクトのおかげでそのような選択肢を与えていただけて本当にありがたく感じている毎日です。

